

社から不採用となり、その理由が誰にもわからない、などということが発生してしまうのです。これはまさに、**基本的人権の重篤な侵害**であると言わざるを得ません。

次いで問題なのは、**我々が知らないうちに思考の主体性を失い、判断能力を失っている**ということです。ネットで各人に流れてくるニュースの項目が、普段閲覧しているニュースなどによって、AIがその人が関心が高いと判断した分野を中心に構成されることがすでに発生しています。すると、同じ電車にのっている**隣の人の見ているニュースの内容と、自分が見ているニュースの内容が全く違う**ということも生じてくるわけです。これにより、**私たちは他の人とコミュニケーションができない状態に陥り、民主的な方法で意思決定をすることができなくなる**のです。このような時代に、正気を保つために我々はどうすればよいのでしょうか？

さらに問題なのは、企業や国、公共団体の意思決定にAI、あるいはAIが収集した情報が使われるようになった場合、その**決定を覆すのが極めて難しくなる**ということです。日本は、従前から政治家より行政組織に対する信頼感が高く、あるいはお上意識が強く、私などもよく、「国が決定したことになぜ疑念をはさむのか、反対するのか」という批判を浴びました。政策決定にAIが使われ出すと、例えば（海外文献で書かれている例にすぎません

が）、「とび色の目をしていてタトゥーのある人で、交通違反を超える犯罪歴のある人は将来的には重大犯罪を引き起こす可能性が高いので、ICチップの体への埋め込みを強制すべき」などという人権違反の法律に反対することができなくなってしまうのです。**政治家は、単にAIに賛成するイエスマンになってしまい、AIの決定に反対すれば、危険思想の持ち主として社会から排除される危険**があると指摘されています。

このような危険を鋭く予感し作品にしていたのが漫画家の手塚治虫でした。彼の「火の鳥 未来編」を読むと、先に述べようなAIに反対した市長の不信任や、AI同士の意見対立による戦争の勃発など、現在のAI社会を先取りした描写がそこここにある、驚かされます。しかしながら残念なのは、この名作を読んだことのある人がそれほど多くないことです。私は**人間の判断力を保つ最後の砦は、図書館や良い書店ではないか**と思います。多くの書店が消えていっている今、吹田市の図書館行政が非常に大切になってきます。吹田市は、中央図書館などへの投資が非常に遅れており、さらに近年市民会館を閉じ、現在はメイシアターの大ホールでさえ長期間使えない状態が続いています。民主主義の過程を守っているとは、とてもいえない事態が続いています。

## 高齢者が増加した吹田の未来は？



吹田市の人口は平成20年の約35万人から30年の37万人まで約2万人増加しています。人口が減少する都市が多い中で、吹田市のこの増加率は突出して高いもので、これは吹田市が住みたいまちとして各種調査で関西1位になるなどトップクラスの人気のもちであること、千里ニュータウン、千里丘、江坂などに多くのマンションが建てられたことが理由です。これは若い人口が流入していることを意味するので、一見喜ばしいことに見えますが、吹田市は短期的な子どもの数の増加に対応

するために、子育て支援や小中学校の整備を全力でおこなわなくてはなりません。ここまでのマンション建設を許したのが都市経営として正しかったのかは疑問が残ります。緑地や貴重なゆとりある住宅環境を犠牲にして高層マンション建設を進めたのです。これからは、この街に住んでくださる人たち、とくに子供たち、高齢者に住みよい環境にするにはどうすればいいのか、吹田市は経済性のみならず、住民の住み心地の良さを本当に真剣に考えて、限られた街づくり可能な土地を使っていかななくてはなりません。

そして、この問題よりももっと深刻なのが**市域全体での高齢者の増加**です。簡単に言えば、現在の社会保障のシステムは、**健康保険も介護保険も年金**